

デートDVって何？

配偶者等からの暴力をDV（ドメスティック・バイオレンス）といいます。DVは決して大人だけの問題ではありません。若者の恋人間で起こる暴力のことを“デートDV”といいます。暴力には、身体的・精神的・性的など、さまざまな種類があり、これらはすべて力と支配（コントロール）の関係によって起こっています。“デートDV”は、当事者が気付かない間に深刻な事態になることも少なくありません。

若者が暴力の加害者にも被害者にもならないために、若い世代だけでなく、周りの大人たちも“デートDV”について考えましょう。

ケースA

相手を力で支配しようと、殴ったり、大声で怒鳴ったりすることは許されません。DVの特徴として、何度も繰り返されるうちに、エスカレートする傾向があります。被害を受けた方は、「いつもは優しい人だから」「自分にも悪いところがあったから」と暴力を容認したり、自分を責めたりしないでください。どのような理由があっても暴力は絶対に許されないのです。



ケースB

相手を好きになり、嫉妬や束縛したいという気持ちになること自体はいけないことではありません。しかし、相手の気持ちを無視し、一方的に行動を制限・禁止することは、相手の自由を奪う暴力です。自分の気持ちだけを押し付けるのではなく、お互いに信頼し合い、相手の気持ちを考えましょう。



ケースD

「別れるなら、死ぬ」「何をするにも一緒にないとイヤ」という考えの背景にあるのは“依存”です。依存し過ぎることは、相手に負担を与えるだけでなく、いつの間にか上下・主従の関係になりかねません。依存ではなく、ともに支え合う関係をつくりましょう。

ケースC

「交際しているからといって、体を触ったり、性行為をすることは当然」というのは間違いです。「断ったから相手に嫌われるかも」という気持ちを持たず、イヤと感じた時は、その気持ちを伝えましょう。好きだからこそ、お互いが我慢せず、対等に思いを言い合える関係が大切です。

交際相手を“怖い”と感じたり、一緒にいることが“辛い”と感じていませんか。そのように感じたときは、気付かないうちにふたりの関係性が対等ではなくなっているのかもしれない。「相手を思いやる気持ち」「自分を大切にすること」の両方を忘れないことが、対等で素敵な関係を築くためには重要です。また、親密な間柄であるからこそ、相手の気持ちを尊重するとともに、自分の気持ちを率直に相手に伝えましょう。

この人に聞きたい

デートDVの現状とあなたにできること

「自分には関係のないこと」と思っていませんか？誰もがデートDVの被害者になりうる可能性があります。デートDVの現状とあなたができる支援方法を、ウィメンズクリニック・かみむらの上村院長先生にお聞きしました。

若者たちのコミュニケーション

現在、若者たちのコミュニケーションは携帯電話を主体としたメールで行われています。出会いの場としては、最初は自分のことを匿名にして、ある程度知り合ってから本音を出して話せるというサイト（ゲームサイト、掲示板などすべてのサイト）が主流になっています。また、昔のように学校の帰りにみんなで集まって遊んだり、友人とけんかになったり、相手の意見を理解して仲直りするという時間をあまり持つことができていません。それよりも学校では表面だけ合わせて、本音の部分は仲の良い友人と後でメールを使って会話することが普通なのです。そんな若者たちが普段の生活の中で孤独を感じたり、寂しくなる時があることは想像できると思います。

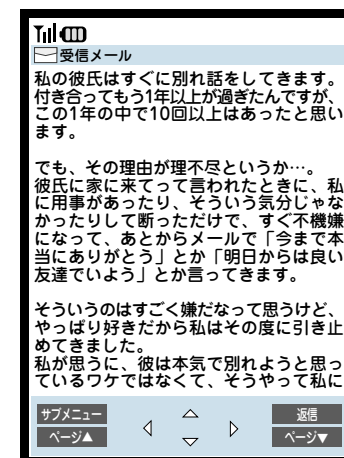
すべての恋愛がデートDVに発展する可能性がある

デートDVの被害者たちは寂しがり屋が多いことは事実ですが、学校での状況、友人関係、家庭環境など特別な子が被害者になっているわけではありません。付き合い始めた時「毎日メールするね、時間があたらいっぱい話そうね」「時間ができたし、すぐに会いたいな」なんて会話は普通です。しかし、次第に「昨日メールがなかったけど、何してたの」「恋人なら時間をつくって無理してでも会おうのが当たり前だよ」と自分勝手な意見ばかりを押し通してくることがあります。自分の彼女になった、彼氏になったということで独占権を持ったことになり、自分の意見が通って当たり前だというような考えになっているのです。

そんな状況から、もし付き合っている相手に対して怖いとか辛いという気持ちを持ち始めたらデートDVを受けていると判断できます。恋愛関係はすべて、デートDVに発展する危険性をはらんでいると言えます。実際に被害を受けていても「叩かれているわけじゃな

いし」、「私も叩き返しているから」などの理由で、被害者がデートDVを否定していることがよくあります。

実際にあった女の子からのメールの一部



先生の返信内容

相手が断れないようなことを言って、自分がしたいようにすることもDVです。叩いたりしなくても、彼が別れ話を持ち出して、あなたをコントロールしようとするのが暴力に当たるんだよ。彼に自分の辛い気持ちが話せて、彼が変わってくれたらいいけど、なかなか変わらないよね。でも彼はDVの加害者ってことは理解してください。

あなたにできる支援とは

多くの若者にとって一番の相談相手は友人です。もしもあなたが上記メールのような相談を受けたら、まずはできるだけ彼の良いところを聞くようにしましょう。彼の良いところを聞いていると次第に相談者は彼の怖いところ、彼といて辛いことも話してくれるようになります。まず相談者からの信頼を得ることがとても大切です。信頼を得た友人であれば、必要な時は公的機関への連絡を促すこともできるはずです。また、本当に困ったときは一人で抱え込まず、周りの大人に相談することも大切です。

お話を聞いたのはこの方

かみむら しげひと
上村 茂仁さん

産婦人科医師、医学博士
患者の4分の1が10代という婦人科医院の院長をしながら、年間100校の小学生以上の生徒に性教育を行っている。また1日100通以上のメールの中、高校生からの相談に直接答えている。デートDV防止プロジェクト・おかやま 副代表

